

貴志川線・沿線活性プロジェクト
—ボランティアミッション—
2014年度 成果報告書

た ま 散 歩

T A M A S a n p o 

プロジェクトメンバー

伊藤美沙希、小川桃佳、北野瑞紀、中村ちひろ、
中本さわ、東山恵里芳、松本康作、回り道杏奈

指導教員

辻本勝久

<ミッション概要>

昨年度に貴志川線・沿線活性プロジェクトを創立し、主に大学生を対象としたツアーの実施、沿線で行われるイベントのボランティアを行った。そこで今年度はツアーを企画し開催するツアーミッションと、沿線で行われるイベントのスタッフとして参加するボランティアミッションの2つのミッションを作り、活動を行った。ボランティアミッションは、沿線で活動する市民団体が開催するイベントに打ち合わせから参加し、当日スタッフとして運営に関わろうとするものである。

<プロジェクト立ち上げの背景と目的>

私たちが活性化したいと取り組んでいる貴志川線沿線では、「クラフトフェア」や「竹燈夜」などその他にもたくさんのイベントが行われている。それらは貴志川線の未来をつくる会や山東まちづくりの会といった住民団体によって主催され、沿線住民のみならず多くの人を集めている。昨年度の活動を通して、住民団体が人手を必要としていることを知り、プロジェクトのメンバーがスタッフとして参加したり、私たちが和歌山大学生と住民団体との仲介役となりスタッフ募集をかけたしたりするなどして、沿線のイベントの活性を目的として活動した。

<今年度の目標>

今年度の目標としては、2つある。1つは、メンバーが沿線で開催されるイベントにスタッフとして参加し、人手を補うことである。また運営に携わることで住民団体との交流を通し、住民視点から貴志川線について考える。2つ目はイベントを大学生に向けて広く宣伝し、認知度を上げることである。そしてスタッフ募集についても大学生に向けて募集し、プロジェクトが住民団体と学生との窓口となることを目標に活動を行う。

<活動内容>

今年度は週1回のミーティングのほか、イベントへの参加、ボランティアなどを行った。それぞれの活動の詳細は以下のとおりである。

活動名目	日にち	内容	協力した市民団体
イベントスタッフ	4月12、13日	四季の郷クラフトフェア スタッフ	山東まちづくりの会
打ち合わせ	5月31日	竹燈夜フォトコンテスト 打ち合わせ	〃
〃	6月14日	〃	〃
イベント準備	7月13日	竹燈夜 竹燈籠運びだし	〃
宣伝・募集活動	7月22～ 8月9日	竹燈夜の展示、 スタッフ募集のポスター	〃

参加者	7月26日	山東盆地の風景を考える ワークショップ	〃
イベントスタッフ	8月9日	竹燈夜中止 ミニコンサート開催	〃
イベントスタッフ	2月22日	貴志川線の未来をつくる 会シンポジウム スタッフ	貴志川線の未来をつ くる会

今年度は貴志川線の沿線で活動する「山東まちづくりの会」、「貴志川線の未来をつくる会」の2つの市民団体と連携を取った。山東まちづくりの会は沿線にある山東地域を拠点に5年前から活動を行っている市民団体である。イベントを開催したり、特産であるたけのこをモチーフとしたたけのこマンというキャラクターを活用し、様々な活動を行っている。貴志川線の未来をつくる会は、南海電鉄が貴志川線の廃線を発表した平成16年に発足し、2000人もの住民を集め様々な活動を通して貴志川線の復活に貢献した団体である。沿線の特産を利用したジャガイモやたけのこを掘るイベントや、貴志川線祭りを開催している。

○4月12、13日

4月に行われた四季の郷クラフトフェア in たけのこ祭りは今年度で5回目を迎えるイベントである。住民による様々な出店や、アートイベントなどが行われ、沿線の住民を始め、県外からも多くの来場者が来る。今回私たちは山東まちづくり会が販売するたけのこマンバーガーの販売スタッフとして参加した。たけのこマンバーガーは山東で採りたいのしし肉とたけのこを使ったハンバーガーで、試食会などの製作の段階から参加することが出来た。当日は山東まちづくり会のみなさんや、出店している地域の人と多くかかわることができ、とても貴重な体験となった。



○7月26日

7月26日には、山東まちづくりの会が開催するワークショップに参加した。このワークショップは和歌山市の協力のもと、5回のワークショップを通して山東地域について住民が改めて魅力や良さについて考えるというものである。プロジェクトのメンバーは第1回しか参加できなかったが、住民との交流を通して私たちの知らない山東地域の魅力について知ることが出来た。また第1回目は大阪府立大学の下村泰彦教授の講演を聞くことができ、他大学が貴志川線で行っている調査について知ることが出来た。

○5月31日、6月14日、7月13日、8月9日

5~7月は、8月9日に行われる竹燈夜イベントで同時開催されるフォトコンテストのポスター作りをプロジェクトで行うこととなり、その打ち合わせを行った。竹燈夜は、切った竹の中にろうそくを入れて作られた竹燈籠を様々な形に並べ、幻想的な空間を作り出すイベントである。和歌山の竹燈夜といえば、和歌山城で行われているものが有名であるが、四季の郷公園で行われる竹燈夜はその広大な広場を利用し、約2倍の竹燈籠を使用している。しかし、まだ認知度が低いため、今年度は宣伝に力を入れていた。プロジェクトとしてもフォトコンテストのポスター制作や竹燈夜イベントのスタッフ募集を和歌山大学生に向けて行ったが、竹燈夜イベント自体は台風の影響のため中止となってしまった。しかし、今回の活動を通してフォトコンテストのポスターの作製や運営に関わることができ、新たな経験をすることが出来た。

○7月22日~8月9日

7月22日~8月9日に、観光学部棟の多目的スペースにおいて、竹燈夜の展示を行った。イベントで実際に使用する竹燈籠を展示したり写真を飾ったりなどして、学生に四季の郷公園で竹燈夜が行われていることを知ってもらうようにした。また、竹燈夜では毎年、地域の子供たちに紙コップに絵を書いてもらったものをろうそくとして活用しており、今年度は和歌山大学生にもそのろうそくを作成してほしいとの要望があったため、展示スペースに紙コップに絵を書くスペースを設け、合計で約10人に絵を書いてもらうことが出来た。



○2月22日

2月22日は、貴志川線の未来をつくる会が10周年を迎える記念として開催したシンポジウムにスタッフとして参加した。シンポジウムは和歌山電鐵の小嶋社長の講演やパネルディスカッションなどが行われ、今後の貴志川線を考える上でとても貴重な話を聞くことが出来た。また、貴志川線の未来をつくる会のみなさんとも交流ができ、活動のお話などを聞くことが出来た。



<今後の展開>

今年度は、住民との交流を通し貴志川線をより深く知ることが出来たと考える。視察やツアーをとしてみた観光客目線ではなく、住民目線で貴志川線の魅力や課題について考えることが出来た。このことは、プロジェクトが地域を活性化する上でとても重要な成果だと考える。このつながりを大切に、住民と協力することでプロジェクトの今後の可能性も広がると考える。来年度の活動に関しては、まだ計画できていないが、これまでのつながりを活かした活動をしていきたいと考えている。